

Nalシンチレーション検出器を用いた エネルギースペクトル分析実験

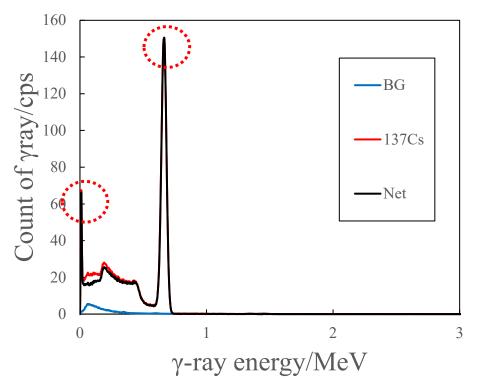
らいおんチーム







1. 研究背景



Cs-137の γ 線スペクトルの 結果は左図のようになった

約 0.662 MeV と 0.0154 MeV 付近にもピークが見られた

Fig.1 Cs-137のγ線測定結果

0.0154 MeV 付近のピークの正体を解明すべく、 次のような実験を行った

<実験手順>

このピークが**Cs-137**による固有のピークであるか確認を行うため、異なる標準試料のγ線スペクトルをNal型シンチレーション検出器を用いて測定した





Fig.2 (a) 測定の様子 (b)使用した線源

<線源ごとの測定結果>

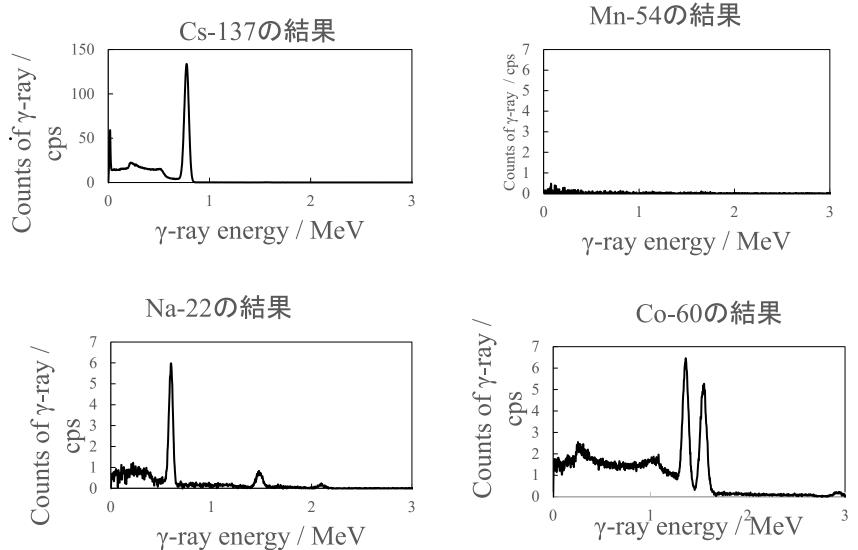


Fig.3 各線源の測定結果

〈異なる条件の実験〉

以下の条件を変化させて実験を行った

(i)測定時間

(ii)試料までの距離

(iii)遮蔽材の有無

<(i)の結果>



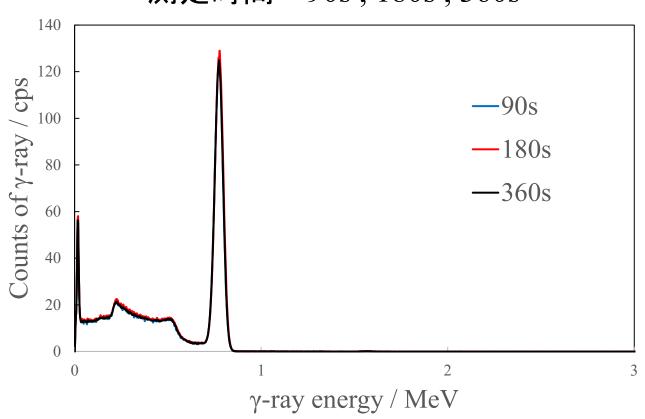


Fig.4 Cs-137のプリセットタイムの影響



あまり変化が見られなかった

<(ii)の結果>

試料と検出器までの距離 0cm, 10cm, 20cm

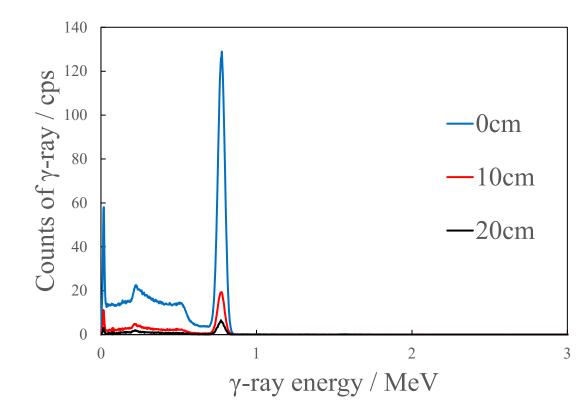


Fig.5 線源までの距離による影響



あまり変化が見られなかった

<(iii)の結果>

・試料と検出器の間に遮蔽物(鉄一枚)を挟み実験を行った

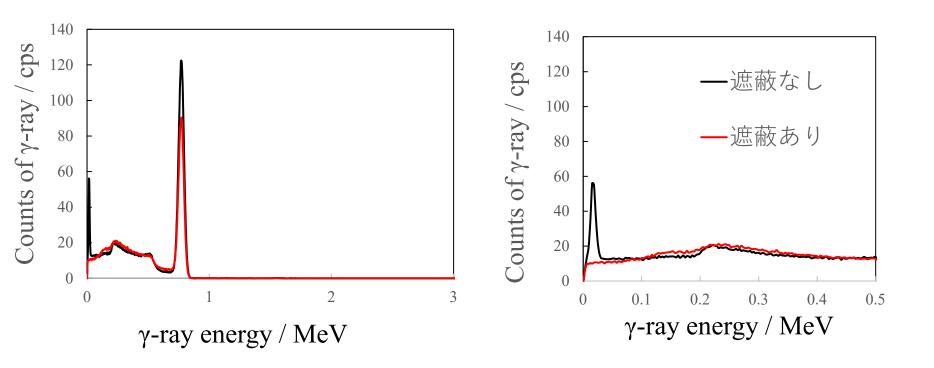


Fig.5 遮蔽材(鉄1枚)による影響

0 MeV 付近のエネルギーが見られなくなった

<考察>

- ・距離の変化では全吸収スペクトルと比較し、ピーク の減少が小さい
- ・遮蔽物を挟んだ実験では、ピークが見えなくなった



0.0154MeV付近のピークは特性X線による スペクトルだと考えられる

同じ線源のはずなのに…

Cs-137のピーク位置や カウント数が 8/30とそれ以外で違う

検出器は変えていない はずなのになぜ?



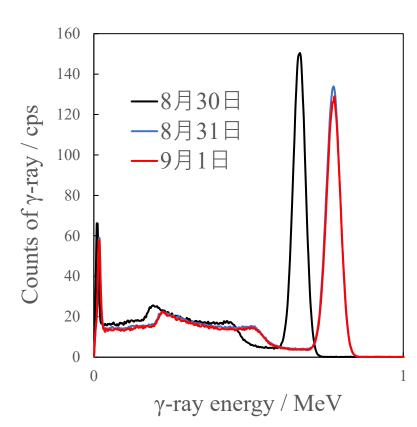


Fig.6 測定日ごとのピーク位置

https://www.irasutoya.com

検出器の周りに マグネットを貼って実験

〈実験1〉

マグネットの数を4つから8つに増やして比較

〈実験2〉

4つのマグネットの貼る位置を 変えて比較



Fig.7 磁石を用いた測定の様子

実験1

- 磁石の数によるピークエネルギー の変化
- ピークカウント数が磁石なしの時よりも高い



電子の向きが変わり 検出面に入射する**電子数**や エネルギーが変化したか?

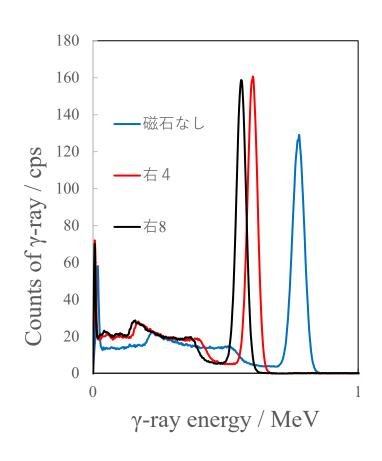
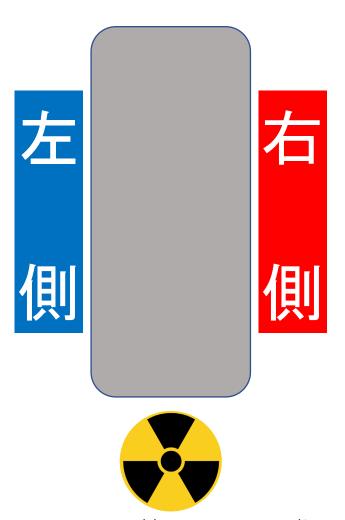


Fig.7 磁石の数による影響

実験2

・線源から見て

検出器左側・右側とする



https://illustimage.com/?dl=5488

実験2

- 磁石の位置によるピークエネルギーの変化
- 加えて左右でも ピークカウント数も変化



磁界の向きごとに **電子の曲がる方向が異なり 検出データ**が変化した

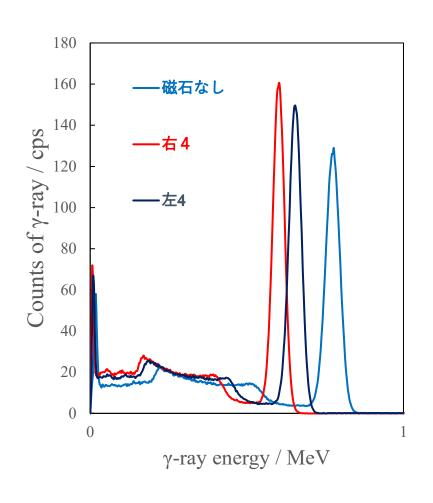
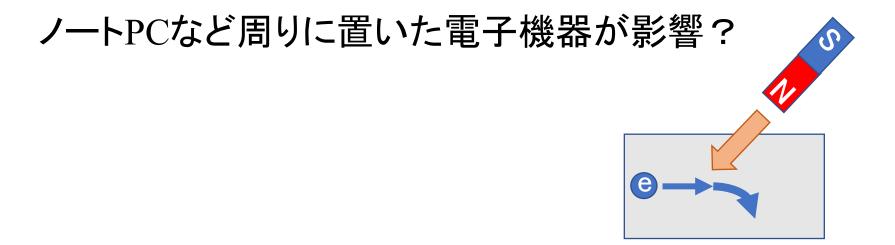


Fig.8 磁石の位置による影響

磁場がピークチャンネルへの影響を与えた

電子は磁界を通るとローレンツカがかかり向きが変 わる?



他にも…

PCのWindowsのアップデートが影響したか? (PCの負荷の変化により電流や電圧も変化?)





動作環境などでも左右されるので
エネルギー校正はとても大切!!



3. まとめ

- ・低エネルギー部分で見られたピークについて調べる ため、測定距離や測定時間、遮蔽物の有無で実験を 行った
- ・Cs-137のγ線測定を行ううちに見られたピーク位置のずれについて調べるために磁石を用いた実験を行った